

令和3年度 日之出保育園 自己評価表 氏名()

記入の仕方・・・よく出来ている=◎ ほぼ出来ている=○ 努力が必要=△ レ印で記入する

No.	内 容	評 価			自由に記入		
		◎	○	△			
1	園の保育理念、基本方針を正しく説明することができる	1	18	4	◎ 1		
2	子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮が出来ている	4	15	4	◎ 1		
3	子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育ができています	4	16	1	◎ 1		
4	子どもの発達、興味に沿った保育内容であり、子どもが意欲的に遊んでいる	8	11	4	◎ 1		
5	子ども一人ひとりの理解を深め、受容しようと努めている	a	子どもの思いを大切にしながら対応している	10	13	0	◎ 1
		b	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちを汲み取るよう、努力している	8	15	0	◎ 1
		c	「早くしなさい」と急かす言葉や「だめ」「いけません」等、制止や禁止の言葉を不必要に用いないようにしている	4	11	8	◎ 1
		d	「できない」「やって」などと言ってくる子どもに対して子どもの状況に応じて温かく対応して	10	13	0	◎ 1
		e	保育士として子どもが安心して話したくなるような雰囲気を持っている	5	15	3	◎ 1
		f	子どものサインを逃さず対応している	5	15	3	◎ 1
6	玩具や遊具の安全管理と、子どもの行動から目を離さないよう責任をもった保育をしている	10	11	2	◎ 1		
7	遊びや生活を通して人間関係が育つように配慮している	a	子ども同士の関係を良くするような言葉かけをしている	9	11	3	◎ 1
		b	喧嘩の場面では状況を適切にとらえ、双方の思いを聞き丁寧に対応している	11	10	2	◎ 1
		c	年齢に応じた社会的ルールを身につけていくように配慮している	9	11	3	◎ 1
		d	子どもが保育士の手伝いをしたり、友達を助けたり、協力し合う場面がある	11	10	2	◎ 1
		e	子どもが落ち着いて食事を楽しみ、感謝の心が育つように指導している	9	11	3	◎ 1
8	突発的な状況に対して適切な対応ができています	1	14	7	◎ 2		
9	保育士自身と一緒に体を動かしながら、楽しんで保育している	11	11	2	◎ 0		
10	職員間の連携がとれている	a	保育士間の信頼関係ができています	1	13	9	◎ 1
		b	保育についての話し合いがなされ、意思統一ができています	0	9	13	◎ 2
		c	それぞれの役割を把握し、適切な動きができています	4	14	5	◎ 1
11	職務上知りえた子どもに関する情報について、家族や友人にも話さないようにしている	18	5	1	◎ 0		
12	研修に参加したり、専門書を読むなどして知識や技能の向上に努めている	4	10	10	◎ 0		
13	保護者の思いを理解するように努め、丁寧に連携を進めている	5	14	3	◎ 2		
14	保護者と子どもに笑顔であいさつをし、気持ちの良い受け入れをしている	17	7	0	◎ 0		
15	室内の衛生、クラスまわりの清掃に心がけ気持ちよい環境に心がけている	14	9	1	◎ 0		

※保育の質の向上を図るためには、保育士一人ひとりが高い専門性と豊かな資質を持つことが重要です。そのため、自分の保育を自ら振り返り課題を見つけることが大切です。自己評価を難しく考えず「自分で計画を立て、実践して、見直す。」いつも自分の保育を振り返ることで、明日の保育の方向性を見直しましょう。

令和3年度 ライオン保育園 自己評価表 氏名()

記入の仕方…よく出来ている=◎ ほぼ出来ている=○ 努力が必要=△ レ印で記入する

No.	内 容	評 価			自由に記入		
		◎	○	△			
1	園の保育理念、基本方針を正しく説明することができる	3	7	5	回答なし0		
2	子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮が出来ている	5	7	1	2		
3	子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育ができています	9	4	0	2		
4	子どもの発達、興味に沿った保育内容であり、子どもが意欲的に遊んでいる	5	7	1	2		
5	子ども一人ひとりの理解を深め、受容しようと努めている	a	子どもの思いを大切にしながら対応している	12	3	0	0
		b	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちを汲み取るよう、努力している	12	2	0	1
		c	「早くしなさい」と急かす言葉や「だめ」「いけません」等、制止や禁止の言葉を不必要に用いないようにしている	3	10	1	1
		d	「できない」「やって」などと言ってくる子どもに対して子どもの状況に応じて温かく対応して	8	6	0	1
		e	保育士として子どもが安心して話したくなるような雰囲気を持っている	7	6	0	2
		f	子どものサインを逃さず対応している	5	8	0	2
6	玩具や遊具の安全管理と、子どもの行動から目を離さないよう責任をもった保育をしている	10	3	0	2		
7	遊びや生活を通して人間関係が育つように配慮している	a	子ども同士の関係を良くするような言葉かけをしている	10	3	0	2
		b	喧嘩の場面では状況を適切にとらえ、双方の思いを聞き丁寧に対応している	9	4	0	2
		c	年齢に応じた社会的ルールを身につけていくように配慮している	9	4	0	2
		d	子どもが保育士の手伝いをしたり、友達を助けたり、協力し合う場面がある	7	6	0	2
		e	子どもが落ち着いて食事を楽しみ、感謝の心が育つように指導している	5	8	1	1
8	突発的な状況に対して適切な対応ができています	5	7	1	2		
9	保育士自身と一緒に体を動かしながら、楽しんで保育している	10	4	0	1		
10	職員間の連携がとれている	a	保育士間の信頼関係ができています	0	12	2	1
		b	保育についての話し合いがなされ、意思統一ができています	0	7	6	2
		c	それぞれの役割を把握し、適切な動きができています	5	10	0	0
11	職務上知りえた子どもに関する情報について、家族や友人にも話さないようにしている	13	2	0	0		
12	研修に参加したり、専門書を読むなどして知識や技能の向上に努めている	3	8	4	0		
13	保護者の思いを理解するように努め、丁寧に連携を進めている	8	6	0	1		
14	保護者と子どもに笑顔であいさつをし、気持ちの良い受け入れをしている	13	2	0	0		
15	室内の衛生、クラスまわりの清掃に心がけ気持ちよい環境に心がけている	8	7	0	0		

※保育の質の向上を図るためには、保育士一人ひとりが高い専門性と豊かな資質を持つことが重要です。そのため、自分の保育を自ら振り返り課題を見つけることが大切です。自己評価を難しく考えず「自分で計画を立て、実践して、見直す。」いつも自分の保育を振り返ることで、明日の保育の方向性を見直しましょう。